

《Ⅱ 教育の内容》の記述及び資料等について

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

キャリア英語科教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考 (非正規生数)	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任担	兼任			
総合科目	言語と平和Ⅰ	○			2						140 (1)		
	言語と平和Ⅱ		○		2			○		○	139 (4)		
専門科目	専門基礎科目	College English		○		4		○		○	136 (5)		
		Listening Workshop		○		2		○			140 (3)		
		Speaking Workshop		○		2		○		○	132 (6)		
		コミュニケーション論		○		2				○	42 (1)		
		ホスピタリティ論		○		2				○	44 (1)		
	専門リメディアル科目	Basic Grammar & Writing		○		2				○	40 (2)		
		Speech Clinic		○		2				○	31 (2)		
		日本語クリニック (日本語表現)		○		2				○	35 (2)		
	専門コア科目 (英語コミュニケーションコース)	Academic English Skills I		○				4	○		○	75 (3)	
		Academic English Skills II		○				4	○		○	85 (3)	
		Academic English Skills III		○				2	○			74 (2)	
		English Workshop I		○				2			○	78 (4)	1
		English Workshop II		○				2			○	95 (4)	
		English Workshop III		○				2			○	52 (4)	
		English Seminar I		○				2			○	70 (4)	
		English Seminar II		○				2			○	86 (4)	
		English Seminar III		○				2			○	50 (3)	
	Integrated Skills		○				4			○	15 (4)		
	専門コア科目 (観光文化コース)	Practical English Workshop I		○				2			○	55 (2)	2
		Practical English Workshop II		○				2			○	35 (2)	
Practical English Workshop III			○				2			○	23 (2)		
Practical English Seminar I			○				2	○		○	56 (2)	1	
Practical English Seminar II			○				2			○	33 (2)		
Practical English Seminar III			○				2			○	17 (1)		
Business English Skills			○				2			○	31 (2)		

	ホテルサービスの理論と実践		○			2			○	37 (1)	3
	ツーリズムの理論と実践		○			2			○	36 (1)	
専門展開科目	国際コミュニケーション		○			2			○	48 (1)	
	TOEIC 対策1		○			2	○			110 (3)	7
	TOEIC 対策2		○			2	○			86 (3)	3
	TOEFL 対策1		○			2			○	24 (1)	3
	TOEFL 対策2		○			2			○	24 (1)	3
	ビジネススキル1 (ビジネスマナー)		○			2			○	39 (1)	2
	ビジネススキル2 (ホテル実務)		○			2			○	23 (1)	3
	ビジネススキル3 (旅行実務)		○			2			○	16 (1)	
	ビジネススキル4 a (エアライン受験対策)		○			2			○	18 (1)	
	ビジネススキル4 b (航空実務)		○			2			○	12 (1)	
	日米コミュニケーション		○			2			○	18 (1)	
	スピーチ・コミュニケーションI		○			2			○	33 (3)	2
	スピーチ・コミュニケーションII		○			2			○	12 (1)	
	スピーチ・コミュニケーションIII		○			2			○	13 (1)	
	アメリカの歴史と文化		○			2			○	37 (1)	
	英語圏文化の理解I		○			2			○	26 (1)	
	英語圏文化の理解II		○			2			○	21 (1)	
	イギリスの歴史と文化		○			2			○	16 (1)	
	英語の仕組みを知るI		○			2		○		11 (1)	
	英語の仕組みを知るII		○			2		○		13 (1)	
	ポキャブラリー・ビルディング		○			2			○	33 (2)	2
	英米文学を知るI		○			2		○		54 (1)	
	英米文学を知るII		○			2			○	43 (1)	
	編入学対策英語1		○			2		○		61 (1)	
	編入学対策英語2		○			2			○	27 (1)	
	ホスピタリティ英語1		○			2		○		36 (1)	3
	ホスピタリティ英語2		○			2			○	13 (1)	
	ホスピタリティ英語3		○			2			○	10 (1)	
	DESTINATION研究1		○			2		○		10 (1)	
	DESTINATION研究2		○			2			○	33 (1)	
	DESTINATION研究3		○			2			○	36 (1)	
	会社業務英語		○			2			○	10 (1)	
	秘書英語		○			2			○	9 (1)	
観光英検対策		○			2		○		20 (1)		
通訳の入門		○			2		○		26 (1)		
英日翻訳入門		○			2			○	22 (1)		
教養科目 (選択A)	基礎スペイン語		○			2			○	21 (1)	1
	基礎フランス語		○			2			○	21 (1)	
	基礎ドイツ語		○			2		○	○	29 (1)	

教 養 科 目	基礎ポルトガル語		○			2			○	5 (1)	4
	基礎中国語		○			2		○		32 (1)	1
	基礎イタリア語		○			2		○	○	30 (1)	
	応用スペイン語		○			2			○	18 (1)	
	応用フランス語		○			2			○	21 (1)	
	応用ドイツ語		○			2		○	○	24 (1)	
	応用ポルトガル語		○			2			○	6 (1)	3
	応用中国語		○			2			○	28 (1)	
	応用イタリア語		○			2		○	○	23 (1)	
	総合スペイン語1		○			2		○		24 (1)	1
	総合フランス語1		○			2			○	11 (1)	1
	総合ドイツ語1		○			2			○	15 (1)	
	総合ポルトガル語1		○			2			○	3 (1)	
	総合中国語1		○			2			○	16 (1)	1
	総合イタリア語1		○			2			○	16 (1)	
	総合スペイン語2		○			2			○	13 (1)	1
	総合フランス語2		○			2			○	6 (1)	1
	総合ドイツ語2		○			2			○	15 (1)	
	総合ポルトガル語2		○			2			○	2 (1)	
	総合中国語2		○			2			○	13 (1)	
	総合イタリア語2		○			2			○	11 (1)	
	情報技術の実践		○			2			○	81 (3)	
	情報技術の応用Ⅰ		○			2			○	19 (1)	
	情報技術の応用Ⅱ		○			2			○	16 (1)	
	ビジネスコンピューティング基礎		○			2			○	38 (1)	
	ビジネスコンピューティング応用		○			2			○	12 (1)	
	情報処理演習1		○			2			○	19 (1)	
	情報処理演習2		○			2			○	13 (1)	
	健康科学の実践Ⅰ			○		1		○	○	61 (4)	5
	健康科学の実践Ⅱ			○		1		○	○	43 (3)	9
	健康科学の実践Ⅲ			○				○	○	9 (1)	
	教 養 科 目 (選 択 B)	世界史の見方	○			2			○	10 (2)	
		日本語の変遷	○			2			○	15 (1)	
文学と社会		○			2			○	19 (1)		
芸術こ親しむ		○			2			○	11 (1)		
日本語表現の実際		○			2			○	30 (1)	1	
日本の文化と歴史		○			2			○	9 (1)	1	
日本経済を知る		○						○	22 (1)		
現代社会の動き		○			2			○	36 (1)	11	
国際政治と文化を学ぶ		○			2		○		18 (1)	1	
論理的に読む方法		○			2		○		5 (1)		

生活の中の法律	○				2				○	16 (1)	
人権を考える	○				2				○	1 (1)	
日本の福祉	○				2				○	9 (1)	
デスティネーション研究4 (京都)	○				2				○	56 (1)	1
デスティネーション研究5 (日本)	○				2				○	6 (1)	2
自然を考える	○				2				○	56 (1)	
宇宙の科学	○				2				○	51 (3)	
地域と情報	○				2				○	1 (1)	
人間と科学技術	○				2				○	4 (1)	
情報の基礎	○				2				○	28 (1)	
身体と健康	○				2				○	12 (1)	
キャリアデザインを考える	○				2				○	21 (1)	
キャリア開発I	○				2				○	18 (1)	
キャリア開発II	○				2				○	18 (1)	
キャリア形成I	○				2				○	6 (1)	
キャリア形成II	○				2				○	0 (1)	
世界史に学ぶ	○				2				○	23 (1)	
日本語の諸問題	○				2				○	16 (1)	1
文学と人間	○				2				○	15 (1)	
芸術と社会	○				2				○	8 (1)	
日本語表現の実践	○				2				○	13 (1)	
日本文化への視点	○				2				○	18 (1)	
経済を考える	○				2				○	17 (1)	
国際理解	○				2				○	21 (1)	9
国際政治と社会を考える	○				2		○			35 (1)	
論理的に書く方法	○				2		○			4 (1)	
憲法を知る	○				2				○	13 (1)	
現代社会と人権	○				2				○	3 (1)	
福祉の諸問題	○				2				○	20 (1)	
海外観光で生きる地理	○				2				○	39 (1)	
環境を考える	○				2				○	39 (1)	
地球の科学	○				2				○	59 (1)	
地域と人間	○				2				○	17 (1)	
生命の仕組み	○				2				○	28 (1)	
数的理解	○				2				○	46 (1)	2

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

キャリア英語科では、学校教育法第108条の短期大学の目的を踏まえつつ、英語コミュニケーションと観光文化の2コースを設けて、それぞれのコース特性を活かしなが

ら将来設計を可能とする実践的な英語コミュニケーション力及び観光文化・観光ビジネスの分野に必要な知識と技能を身につけた人材を育成することを目的として、教育課程を編成している。カリキュラムは授業科目を学期ごとに完結させる Semester 制度により、それぞれの学期で集中的に授業を履修させて学習効果を高めている。授業科目は、総合科目・専門科目・教養科目・重点履修科目の4つに区分して、基本的な知識からより専門的な学びへと体系的に履修することができるように教育プログラムを編成している。

本学は夜間2年制の短期大学であり、多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れること、また、コース選択を第1 Semester の基礎的な学習を行ったうえで、自らの進路に応じて選択する方式をとっている。そのため、必修科目は総合科目のみとし、専門科目及び教養科目それぞれに必修性の高い科目と選択性の高い科目に分類できる科目区分としている。

履修指導方法では、一つひとつの受講科目に対する十分な学習時間を確保する観点から、Semester で登録できる上限単位を24単位としている。また、単位あたりの成績評価の平均値を示す GPA 評価により、次の Semester への履修に際して、評価の高い学生には上限を超えた登録を認め、評価の低い学生にはさらに上限単位を20単位に制限している。

成績評価では、定期試験のみによって一元的に評価するのではなく、平常試験（小テスト・オーラルテスト・レポート等）や定期試験等を組み合わせて多面的な評価を行っている。また、より厳格な成績評価を推し進めるため、不合格科目を成績証明書に記載し GPA 評価を実質的なものとしている。

【総合科目】

建学の精神を現代社会の重要課題であることを理解することを講義目標として、春学期の授業はリレー形式で行い、現代世界の抱える問題に対する鋭い問題意識、高い課題設定能力の養成を目指す。秋学期の授業は演習形式で行い、問題解決のための実践的な思考能力・技術の養成を目指す。

【専門科目】

専門科目は基礎、リメディアル、コア及び展開の4つに科目区分で構成している。特に必修性の高い基礎科目とコア科目の演習形式の授業科目については、入学段階から TOEIC (I P) のスコアを参考にしながら習熟度別にクラスを編成して、学生のレベルに合った授業を行い、さらにそれぞれのクラスは少人数制で、学生一人ひとりが主体的に取り組めるような授業を展開している。また、展開科目では英語コミュニケーションと観光文化の2コースに対応した科目を演習と講義をバランスよく配置し、それぞれのコースに必要な知識と技能を修得できるようにしている。さらに4年制大学への進学を希望する学生のニーズに応えるために、編入学対策の授業科目も選択できるようにしている。

【教養科目】

教養科目は選択 A と選択 B に区分して、選択 A には必修性の高い科目を配置し、英語以外の外国語科目の履修やコンピュータ等情報技術に関する科目等履修することができるようにしている。選択 B では国際社会に広く活躍するために必要な授業科目を履修することができるようにしている。

【重点履修科目】

重点履修科目は、学生の興味や関心に応じて、科目の選択の幅を広げるとともに、特定の分野にも集中して学ぶことを目的とする科目区分で、卒業要件単位を重点的に割り当てることができるようにしている。重点履修科目としては独自に科目を開講していない。専門基礎科目・専門リメディアル科目・専門コア科目・専門展開科目・教養科目（選択A）・教養科目（選択B）の科目区分から、それぞれの必要単位数以外に12単位分の科目を修得し、この単位数に充てなければならない。なお、上記の科目区分の必要単位数を超えて修得した単位は、自動的に重点履修科目の単位数に算入される。

添付資料5「単位修得要領」P.22～P.33

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

本学の教育課程には、履修して取得できる資格課程は設けていない。しかしながら、本学では併設する京都外国語大学の「科目等履修生制度」を利用して、図書館司書と博物館学芸員の資格取得を可能としている。また、教職課程については京都外国語大学へ編入学することを前提に、併設大学の教職課程の一部科目（教育原理・学校教育心理学・教育行政学・教育課程論・道德教育の研究）の履修を認めている。

また、本学では語学の資格検定試験での資格取得を推奨し、TOEICの団体受験（IP）、単位認定制度、後援会から受験料の補助制度や学内での試験実施等、学生が積極的に資格検定試験にチャレンジする環境を整えている。

在学中に資格検定試験等を受験し、その成果を本学の単位として認定する基準は次のとおりである。

学修（資格検定試験）の種類	基準	単位数
TOEIC ※TOEIC IPを除く	770以上	3
TOEIC ※TOEIC IPを除く	600以上	2
TOEFL iBT ※TOEFL ITPを除く	83以上	3
TOEFL CBT ※TOEFL ITPを除く	220以上	
TOEFL iBT ※TOEFL ITPを除く	61以上	2
TOEFL CBT ※TOEFL ITPを除く	173以上	
実用英語検定試験	準1級以上	3
スペイン語技能検定試験	4級以上	2
スペイン政府検定試験DELE	初級以上	2
実用フランス語技能検定試験	4級以上	2
ドイツ語技能検定試験	4級以上	2
ゲーテ・インスティトゥートの検定試験	Start Deutsch 1以上	2
国際ポルトガル語検定試験	準初級以上	2
ブラジル教育省 ポルトガル語検定試験	中級以上	2
実用中国語技能検定試験	4級以上	2
中国語検定試験	4級以上	2

HSK（中国語能力認定試験）	3級以上	2
実用イタリア語検定試験	4級以上	2
ITパスポート試験 （旧初級システムアドミニストレータ）	合格	2
基本情報技術者試験（第2種情報処理技術者試験）	合格	2

添付資料5「単位修得要領」P.18・P.37・P.42

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

履修指導では、学年ごとにアカデミック・アドバイザーの教員を配置し指導にあたっている。履修登録は、セメスター毎に行っており、年度始め及び秋学期始めの学期ごとに年2回行っている「授業科目オリエンテーション」ではアカデミック・アドバイザーと教務部の事務職員が協働して、キャリア英語科の教育目的・教育目標や教育課程の到達目標等を十分に理解させるとともに、履修登録方法や学年別の注意事項の説明を行っている。また、アカデミック・アドバイザーのオフィスアワーを設け、科目登録やGPA評価による就学指導、年2回の成績ガイダンス、その他学生生活面に至るまで、学生一人ひとりの相談に応じている。

全学的にオンラインシラバスを導入し、授業計画と時間割を前年度の3月20日頃にはホームページ上で公開して早期に情報提供し、選択科目を学生が適切に判断して選択できるようにしている。選択科目は、授業開始日から1週間にわたり「授業科目ガイダンス期間」を設けて、90分の授業を前半と後半に分け、同一講時の授業を複数に見学することができる。学生は主体的に授業内容を確認し、その後に履修登録できるようにしている。これにより履修登録前の選択科目のミスマッチを解消するとともに、将来の設計にあわせて希望する選択科目を履修することができる。

また、ポータルサイトを活用したWEB上での履修指導も可能としている。一つひとつの授業科目における教材・課題の配付やレポート提出だけでなく、ディスカッションや質疑応答もWEB上で行え、時間的制約のある本学学生には有効な履修指導の手段である。

時間割編成については、夜間2年制の課程であり、平日は原則として16時40分から21時20分までの間に3コマ開講する中で、必修に近い科目は、18時15分から21時20分の2コマに配置し、社会人の履修に配慮している。また、学生の選択性を確保することから、平日の15時から16時30分までの1コマに選択科目を配置するとともに、土曜日は13時20分から19時45分までの間に4コマ開講している。

添付資料5「単位修得要領」P.17、添付資料6「講義概要」、参考資料4「授業科目時間割表」

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業するためには2年以上在学し、次表の授業科目区分に定められた単位数に従って62単位以上を修得することとなっている。この卒業要件については、毎年「単位修得要領」に明記し、年度始めの「授業科目オリエンテーション」で配付して学生に周

知徹底を図っている。また、この内容はホームページ上でも公開している。

学生納付金については、毎年3月中旬に保証人及び学生本人宛に郵送する「学年初めに当たって」に納付金等を明記して周知徹底を図っている。また、この内容はホームページ上でも公開している。

〔卒業要件〕

授業科目区分		必要単位数
総合科目		4
専門科目	専門基礎科目	8
	専門リメディアル科目	—
	専門コア科目	14
	専門展開科目	10
教養科目	教養科目（選択A）	6
	教養科目（選択B）	8
重点履修科目※		12
合 計		62

※重点履修科目の単位数は、専門基礎科目・専門リメディアル科目・専門コア科目・専門展開科目・教養科目（選択A）・教養科目（選択B）の各科目区分からそれぞれの必要単位数以外に12単位分の科目を修得し、この単位に充てなければならない。

〔学生納付金〕

（円）

キャリア英語科		平成21年度入学（1年次）			平成20年度入学（2年次）		
		春・秋学期	春学期	秋学期	春・秋学期	春学期	秋学期
学費	入学金	130,000	130,000				
	授業料	442,000	221,000	221,000	442,000	221,000	221,000
	教育充実費	142,000	71,000	71,000	142,000	71,000	71,000
代理徴収金	互助会保険費	400	400		400	400	
	後援会費	10,000	10,000		5,000	5,000	
	英志会費	3,000	3,000		1,000	1,000	
	卒業記念費				4,000	4,000	
	卒業アルバム費				7,000	7,000	
	校友会費				30,000	30,000	
合 計		727,400	435,400	292,000	631,400	339,400	292,000

①平成20年度入学生の平成21年度の授業料、教育充実費は、20年度の授業料、教育充実費と同一額（据え置き）となっています。

②平成21年度入学生の後援会費には5,000円、英志会費には2,000円の入会金が含まれています。

③代理徴収金は年1回の納入となっています。

添付資料5「単位修得要領」P.24、参考資料5「学年初めに当たって」

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。

平成19年度に「英語科（定員120人）」から「キャリア英語科（定員140人）」へ改組し、教育課程上で「英語コミュニケーション」と「観光文化」の2コースを設置し、カリキュラムも大幅な見直しを図り現在に至っている。平成20年度に完成年度を迎えたこともあり、キャリア英語科のカリキュラムが、学生のニーズに応じた教育と質の確保に留意しながら、学生一人ひとりの豊かなキャリアづくりと多様なライフスタイルにあわせたキャリアアップが、継続的に図れるようにする。

具体的には「英語コミュニケーション」と「観光文化」のコース制について、履修状況を分析し、各担当教員等から幅広く意見を聞き、常に改善している。また、海外インターンシップを含めインターンシップ制度と教育課程における職業教育の現状について把握し、体験活動と職業教育の有機的な接続を図り、学生支援を充実させていく。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

本学のシラバス（講義概要）では、個々の授業の質を向上させることを目的とし、各授業科目に講義目標を設定し、講義題目、授業内容・計画、授業での予定項目、授業についての留意点、評価についての留意点、教科書、参考文献、評価方法、履修条件等を記載している。特に各回の授業の主な予定項目等シラバスとしての内容充実に努めている。さらに「授業と評価についての留意点」の項目を設け、学生が教室外における自学自修に対する指示、評価方法や受講学生への要望事項を記載し、授業の取り組みへの意識を喚起している。これらシラバス内容は、すべてデータベース化を進め、CD-ROMによる配布に加えて、本学のホームページ上からの閲覧を可能にしている。ホームページ上での公開に際し、個々の科目内容を検索できるようHTML形式をとっている。また、参考文献については本学の図書館のデータベースと連携し、学生が文献を検索しやすいように情報提供を行っている。これらの内容については、授業科目オリエンテーションで周知を図っている。

担当教員がWEB上から直接入力・校正可能になるようシステムを構築し、学生が早期に講義情報が入手できるようにしている。また、検索のスピードアップ等を図るため、平成18年度からPDF形式からHTML形式へ変更し、さらに授業開始後も教材の登録・配信等もWEBを活用することで、マルチメディアを活用したシラバスとしての機能を充実させている。

なお、講義概要の記述の内容や項目に記載不備がないように、シラバス作成段階で、毎回の授業内容が記載されていないものについては、更新できないシステムとしている。

添付資料6「講義概要」

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

学生による授業評価アンケートの調査結果により個々の授業における学生の授業への取組状況を把握するとともに、授業担当の教員とはFDや担当者打ち合わせ会を通して、学生の履修状況や学業への意欲等について把握に努めている。

具体的には、習熟度別でクラス編成している専門基礎科目と専門コア科目の授業科目において、春学期は5月下旬、秋学期は10月下旬に多欠席調査を行い、出席状況の把握に努めている。欠席が一定日数を超えた場合には保証人に通知し、該当学生は、アカデミック・アドバイザーの修学指導を受けさせる等、面談を主とした指導を強化している。学生の修学状況については、学期ごとにアカデミック・アドバイザー会議を開催し、単位修得状況及びGPA評価等により、その現状の把握に努め、対応を協議し、必要に応じてアカデミック・アドバイザーに個別面談して指導している。

添付資料5「単位修得要領」P.13・P.14、参考資料6「学生による授業評価アンケート」

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

平成7年度から任意での授業評価アンケートを行ってきた。自己点検・評価の義務化を踏まえ、全学的な取り組みとして平成14年度に「自己点検・評価運営委員会」内に「授業点検・評価実施のための小委員会」を設置し、開講科目すべてにおいて年次計画で「学生による授業評価アンケート」を実施している。また、平成20年4月に「授業点検・評価実施のための小委員会」を廃止し、「FD特別委員会」において「学生による授業評価アンケート」を実施している。

本学では春学期は6月下旬、秋学期は12月上旬の年2回、全授業科目を対象に授業評価アンケートを実施し、実施率はほぼ100%である。平成15年度から実施する授業評価アンケートは、集計結果を学内で取りまとめ、授業科目区分ごとの平均値を参考資料として組み入れたグラフにして担当教員に返却している。当該科目の内容や教育方法に工夫・改善が図れるよう、できる限り早い時期に集計結果を担当教員にフィードバックし、翌年度のシラバス等への工夫・改善に反映できるようにしている。平成19年度からは従来のアンケート項目以外に記述式を加えて実施している。

参考資料6「学生による授業評価アンケート」

(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取組状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

本学は、昭和57年度から毎年3月に担当者打ち合わせ会を行ってきた。それに加え学則第20条（「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」）の規定に基づき、本学の教育活動の質的向上と発展を図るため、平成7年度から授業科目担当者セミナー（学内FD）を学内で実施している。

平成 20 年 4 月に F D 特別委員会を設置し、以下の任務を遂行している。

- (1) 全学の F D 活動の企画・実施に関する事項
- (2) 全学の F D 活動の評価に関する事項
- (3) 学科等が行う F D 活動の支援に関する事項
- (4) 授業評価アンケートの実施に関する事項
- (5) 授業評価アンケート結果の管理・フィードバックに関する事項
- (6) F D 活動及び授業評価アンケートに関する情報の収集と提供
- (7) F D 活動に関連する他の委員会等との連携に関する事項
- (8) その他、F D 活動及び授業評価アンケートに関する事項

教育内容・方法の改善のための組織的な取り組みとして、夏期休暇を利用して学外での合宿形式による専任教員研修会（学外 F D）を実施し、12 月に学内で（平成 21 年から 3 月実施）授業科目担当者の合同セミナーを実施している。過去 3 年間の専任教員研修会の講演・分科会等の主なテーマ等は、次表のとおりである。

専任教員研修会（学外 F D）

年度	開催日・場所	テーマ等
平成 19	7 月 30 日～31 日 大津プリンスホテル	<p>特別講演 「授業改善のあり方について」 講師 京都大学高等教育研究開発推進センター長 教授 田中毎実 先生</p> <p>合同研修 報告 1 「日米の大学での学習支援の取り組みについて」（奥川） 報告 2 「授業評価アンケート調査での『自由記述回答』について」（平山・村上） 報告 3 「導入教育としての『言語と平和』－ 学習支援の新しい可能性を求めて」（早瀬・國安）</p> <p>分科会 共通テーマ「学習支援について」 第 1 分科会 「『主体的学習の促進』をめぐる学習支援（1）」〈語学教育を中心に〉 学生の主体的な学習（“大学生としての勉強のしかた”）を促すための工夫。例えば文献の探し方、読み方、レポート作成、授業時間外の学習促進、研究会等への学生参加促進についての工夫等 第 2 分科会 「『主体的学習の促進』をめぐる学習支援（2）」〈教養教育を中心に〉 第 3 分科会 「『基礎学力の補強』をめぐる学習支援（1）」〈語学教育を中心に〉 授業実践の場での基礎学力不足や成績不振学生等に対する支援。また例えば日本語表現方法についての指導のための工夫等 第 4 分科会 「『基礎学力の補強』をめぐる学習支援（2）」〈教養教育を中心に〉 第 5 分科会 「短期大学での学習支援」 短期大学キャリア英語科がスタートし、新しく観光文化コースも設けられた。短期大学のさまざまな面での学習支援には学部にはない難しさもあるだろうが、授業実践の場でそれをどうすすめていけばよいのか等</p>
平成 20	7 月 30 日～31 日	<p>基調講演 「入試結果に見る外国語系学部及び京都外国語大学・短期大学の動向」 講師 ゴートゥースクール・ドット・コム株式会社西日本支社 支社長 満洲匡彦 氏</p>

	琵琶湖ホテル	<p>学内教員発表・問題提議 「TOEIC プレイスメントテストに見る京都外大生の動向」 (倉田・柳田・西元)</p> <p>指定討論 「ミクロ (授業運営、授業設計)、カリキュラム」(舟杉・竹内)</p> <p>ラウンドテーブルA「学科FDについて」 ラウンドテーブルB「読書マラソンについて」 ラウンドテーブルC「専門教育と教養教育との連携」</p> <p>分科会 テーマ「3つのポリシーを巡って～アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー～」</p> <p>分科会A「京都外大の生き残り戦略の構築に向けて」 分科会B「外国語大学におけるリメディアル教育のあり方」 分科会C「「実際使用」をめざした「多様(マルチ)な」外国語教材の開発・発信」 分科会D「多様化する学生への支援の在り方について」 分科会E「学習到達目標の設定と専攻語検定試験及び教養教育の役割」</p>
平成 21	9月10日～11日 琵琶湖ホテル	<p>基調講演 「教育構想とFD～質保証システムの構築に向けて～」 講師：同志社大学文学部教授 教育支援機構長 圓月勝博 先生</p> <p>問題提議 発表者：久保、下村(秀)、佐々木、長谷</p> <p>フロア・ディスカッション ラウンドテーブルA「エクステンション再考」 ラウンドテーブルB「卒論に対する準備教育の必要性」 ラウンドテーブルC「派遣留学制度の再考」 ラウンドテーブルD「短期大学の現状と課題」 ラウンドテーブルE「外国語大学におけるキャリア教育の可能性」</p> <p>第1分科会「本の虫」 人間力・コミュニケーション力を培う「読書」ーカリキュラムとの連動をめざしてー</p> <p>第2分科会「到達目標」 到達目標(設定)を教育内容の充実にどう活かすかー学生に到達すべき目標を明確にすることの意義</p> <p>第3分科会「情報コンテンツ」 本学におけるマルチメディアコンテンツ作成の方向性を考え、そしてそのための支援・組織のあり方を考える</p> <p>第4分科会「ピア・サポート」 社会の進歩に資する「自立型人材」の育成を目指すー本学独自のピア・コミュニティの構築にむけてー</p> <p>第5分科会「入学前教育」 入学前教育：アドミッション・ポリシーと建学の精神ーカリキュラム・ポリシーへの道標ー</p>

過去3年間の大学・短期大学授業科目担当者合同セミナー(学内FD)の主な発表テーマ等は、次表のとおりである。

年度	開催日	主な発表テーマ等
平成 19	12月6日 15時30分～	<p>1. 卒業論文必修選択化を前に、今なすべきこと(岡部)</p> <p>2. プロゼミ授業をふりかえる ーいかにして、学生にテーマを見つけさせるかー(竹内)</p> <p>3. 学習支援あれこれ(三角)</p>
平成 20	12月11日 15時30分～	<p>1. 本学学生の抱える心理的問題の特質と教職員の対応 ①梅本 直(本学 学生相談室インテーカー) ②向出佳司(本学 学生相談室長)</p> <p>2. 授業改善を支援するために 公開授業・FDネットワーク 杉原真晃(山形大学高等教育研究企画センター講師)</p>
平成 21	3月1日 15時30分～	<p>テーマ：「授業評価アンケートと授業『工夫』」</p> <p>スケジュール： 司会・進行：羽根田知子</p>

		1. 学長挨拶 2. 問題提議：平山弓月・村上正行：20分 3. 授業実践発表：60分（15分×4名） ドイツ語学科 橋本 政義 英米語学科 藤本 幸治 全学共通（教養） 畑田 彩 短期大学 相川真佐夫 4. グループディスカッション：35分 5. 纏め・総括：5分
--	--	---

上記のとおり、授業科目担当者セミナー（学内FD）や1泊2日の学外FD、春学期と秋学期に実施している授業評価アンケートにも熱心に取り組んでおり、授業改善に対する本学教員の意識は高い。今後は、文部科学省の戦略的連携事業で平成20年度に採択された「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」の事業推進のために設置された「京都FD開発推進センター」や「大学コンソーシアム京都」といった外部の機関も活用しながら、さらに教育効果の向上を目指して授業改善に取り組んでいく。

参考資料7「京都外国語短期大学 FD特別委員会規程」

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

前項で述べている毎年3月に実施する授業科目担当者打ち合わせ会において、専任・兼任教員に出席を求め、全体会では本学の教育理念や教育課程の変更等について説明を行うとともに、懇談会を実施して本学の教育への理解と協力をお願いしている。

また、同日にキャリア英語科長が専門科目の担当者を召集し、学科の教育方針や指導方法等について説明をし、意見交換を行っている。

各学年に配置するアカデミック・アドバイザーとは、4月と9月の年2回定期的なアドバイザー会議を実施するほか、授業期間中も学科会議や推薦編入学の選考委員会時に情報交換を行い、必要に応じてアカデミック・アドバイザーが専門・教養分野の兼任教員との連携を図れる体制が整っており、協力体制と意思疎通の面では問題はない。

【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

単位互換では、大学コンソーシアム京都に加盟する46大学・短期大学の単位互換制度と、併設する京都外国語大学との特別聴講制度により、昼間の時間を有効に活用している。

また、本学の習熟度授業では、入学時と1年次終了時、2年次終了時にTOEIC(I P)を実施し、その結果に基づき習熟度別クラス編成を行い教育効果を高めるとともに、

入学時から2年間の教育課程における学習成果に客観性を持たせている。

インターンシップについては、体験型インターンシップと実践型インターンシップを実施している。特に、観光文化コースでは、プラクティカルな英語教育やビジネススキル等の職業教育を展開する中で、観光ビジネスの場面での「ホスピタリティ英語」の疑似体験を通して発話練習できる自律学習型教材・装置を開発した上で、学生も経済的に安心して実習できる「有給で就労する実践型のペイドインターンシップ」と組み合わせてキャリア支援を行っている。また、旅行会社と連携して、ツアープランニングを目的とした海外インターンシップも実施している。

海外研修としては、筆記試験、会話試験、面接により選抜された学生が、夏期休暇を利用して約4週間、カナダのダグラスカレッジで英語を中心とした集中研修を行う「夏期英語研修」がある。また、夏期・春期の休暇中に実施する約4週間の海外セミナー（短期語学研修）は、9ヶ国11コースを用意しており、併設大学との連携により国際交流協定大学等で研修を実施している。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点が求められることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし

<添付・参考資料>

1. 学生便覧等、学習等について学生に配付している印刷物

添付資料5 「単位修得要領」

2. シラバスあるいは講義要項

添付資料6 「講義概要」

3. 選択科目の履修について記載している印刷物

参考資料4 「授業科目時間割表」

参考資料5 「学年初めに当たって」

4. 学生による授業評価票

参考資料6 「学生による授業評価アンケート」集計結果

5. FD活動の組織（FD委員会等）についての規程

参考資料7 「京都外国語短期大学 FD特別委員会規程」